

第41歩

「合言葉は 協働(working together)」

去る7月7日から9日の3日間、本市において、「G7香川・高松都市大臣会合」が開催されました。

今年、日本が議長国に当たっているG7サミット(主要7カ国首脳会議)の関係閣僚会合の一つである「都市大臣会合」の舞台が高松市となったのです。本市における関係閣僚会合の開催は、7年前の「G7香川・高松情報通信大臣会合」に続いて2度目です。2度とも四国では、唯一の開催でした。それだけ、本市が国際会議等の開催能力において、高い次元の機能を持っているということでしょう。サンポート高松地区では、香川県立アリーナの整備も進んでおり、今後、MICE(マイス)と呼ばれる会議やイベント等の誘致にも弾みがつくものと期待しています。

都市大臣会合の共通テーマは、「持続可能な都市の発展に向けた協働」でした。そして、「ネット・ゼロ、レジリエンス」「インクルーシブ」「デジタル」の3つの項目が設定されました。横文字が並んでわかりにくいところがありますが、ネット・ゼロと言われる脱炭素社会のあり方等、地球規模で取り組むべき課題は、都市をいかに持続可能な形で発展させていくことができるか、という問題に収斂(しゅうれん)される、との趣旨のようです。昨年の初回は日本の敗戦処理を決めた宣言が出された、旧東ドイツの都市ポツダムで行われました。次いで今年、高松での開催です。歴史に名が残る、というだけでも開催の意義は大きかったと思います。また、会合の成果として「コミュニケ」が取りまとめられるとともに「持続可能な都市の発展に向けた協働に関する香川・高松原則」も公表されました。G7の会合で合意された内容が「高松」の名前を冠した形で世に出される、ということも大きな意義を持つものです。

最後に、「香川・高松原則」の3項目を記しておきます。合言葉は「協働(working together)」です。そして、「地方」、「市民」が主役です。原則1: 地方政府を支援し協働する。原則2: 市民社会、民間セクター、その他の主体の参画を得て協働する。原則3: 新興国や開発途上国を含む国際交流の支援を通じて協働する。

